

でわる(じ)と(か)ら始めよう



成田富里いずみ清掃工場に集まったごみ

成田富里いずみ清掃工場で処理される可燃ごみの量は、1日約200トン。持ち込まれる可燃ごみの量は年を追うごとに増加しています。ごみの削減は、私たちがすぐに取り組むべき大きな課題です。できることから始めましょう。

成田市のごみの現状

増える処理量と財政負担

成田富里いずみ清掃工場では、本市と富里市の可燃ごみを高温で溶かして処理しています。建設時は年間のごみ処理量を5万6,000トンと想定していましたが、近年の搬入量は6万トンを超えています。

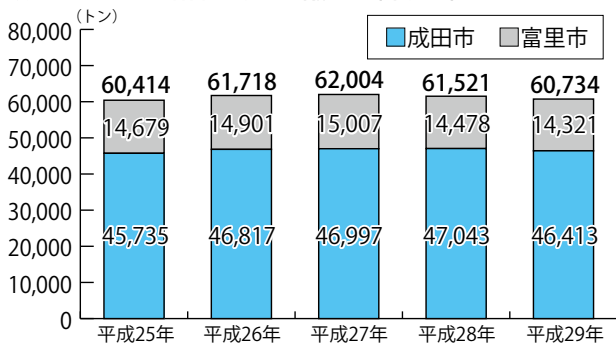
このような処理量の増加や、瓶や缶などが分類されずに混ざっていることなどが炉を傷める大きな要因となっています。

設備管理費や収集経費などを含めた本市のごみの総処理経費は、およそ18億円にも上っており、財政的にも大きな負担が発生しています。

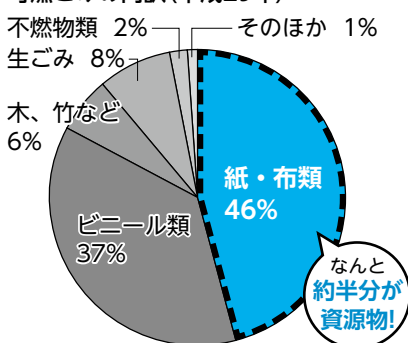
全国平均より排出量が多い

平成28年度に成田市民が出したごみの量は1人1日当たり1、104グラムでした。

成田富里いずみ清掃工場への搬入量(年度別)



可燃ごみの内訳(平成29年)



このような現状を変えるためにも、私たちの生活から出るごみを見直し、さらに排出するごみを少なくする生活を一人一人が心掛けることが大切です。

成田富里いずみ清掃工場に運び込まれた可燃ごみの内訳は左図の通りです。本来は資源物である紙・布類が全体の半分近くを占め、多くの資源物がリサイクルされずに焼却されていることが分かります。その処理にも多くの費用がかかってしまっています。

可燃ごみの半分がリサイクルできる物

全国や千葉県の平均と比べると、約2割も高い数値であることに加え、平成25年度からの推移では全国・千葉県ともに減少傾向であるのに対し、本市は横ばいの状況です。

ごみ減量化への取り組み

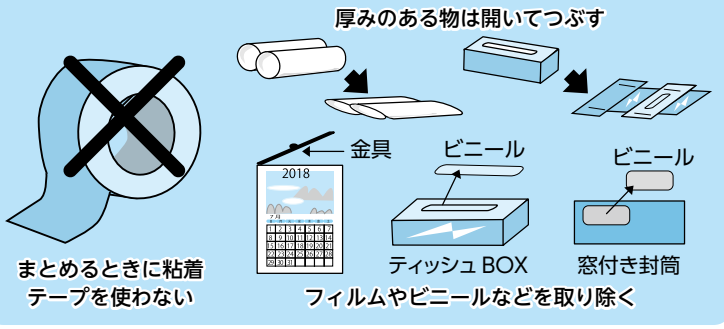
紙類も大切な資源

紙は可燃ごみとして扱われがちですが、大切な資源物です。

中でも、チラシ・パンフレット・コピー紙・包装紙・紙袋・紙箱などの紙類は細かい物が多く、分別されずに捨てられてしまいがちです。リサイクルできる資源です。捨てずに集めましょう。

ごみ箱とは別に、雑紙用の紙袋を用意しておくとうまく分別でき

雑紙を出すときの注意点



ます。集めた後は、紙袋ごとひもで十文字に縛り、そのまま集積所に出してください。

また、新聞・雑誌・段ボール・紙パックは、種類ごとにまとめてひもで十文字に縛って出してください。

衣類・布類のリサイクル

衣類は中古の衣料品として、東南アジアなどに輸出されます。雨にぬれるとカビや臭いなどで再利用できなくなってしまうので、透明なビニール袋に入れて出してください。

汚れたり、破れたりしている物は、可燃ごみで出してください。布類は、機械の油を拭き取る工業用の雑巾などにリサイクルされます。

食品ロスを減らそう

日本の食品ロスの量は、年間646万トンに上ると推計されています。これは、国民1人当たりで考えると、毎日茶碗1杯分のご飯(約139グラム)を捨てている計算になります。家庭で発生する食品ロスの原因は、食べ残しや消費期限切れ、調理の際に本来食べられる部分を取り除かれることなどです。

家庭での食品ロス削減は、家計にとってもメリットがあります。今日から早速、次のことに取り組みんでみましょう。

家庭でできる取り組み

- 足りない食材が一目で分かるように、冷蔵庫の中を整理する
- 買い物に行く前に冷蔵庫の中を確認し、必要な食材と量をメモする
- 少量パックやばら売りなどを利用し、使い切れる分だけ買う
- 消費期限や賞味期限が迫っている食材から使う
- 野菜や果物の皮をむくとき、食べられる部分までむかないように気を付ける。食べられる皮もあるので利用する

- 使い残しが出ないようにメニューを考える。残った分は別の料理に利用する

まだあります

食品に関連する廃棄物

食品ロスのほかにも、食品に関連する廃棄物は数多くあります。例えばレジ袋。買い物にエコバッグを持っていくことで、レジ袋の削減になります。近年では、レジ袋を有料にしている店も増えているため、家計の節約にもつな

がります。

プラスチック製容器包装

プラスチック製容器包装は、自身の商品を使い切ると不要になるプラスチック製の容器や包装のことです。プラスチック製容器包装にはプラマークが付いています。パンの外袋、卵のパック、レジ袋などがあります。プラスチック製容器包装(白色)の指定ごみ袋は資源物として回収されます。しかし、プラスチック製品の全てが対象ではありません。次のことに注意して分別してください。



- プラマークが付いていることを確認する
- 中身は使い切るか、取り除く
- 汚れや臭いが取れないものは可燃ごみとして出す
- ペットボトル
- ペットボトル(オレンジ色の指定ごみ袋)も資源物として回収されます。捨てるときは次のことに注意してください。
- キャップ・ラベルを外す
- 中身を軽くつぶす
- ペットボトルをつぶす
- 取り外したキャップとラベル、プラスチック製の物は白色の指定ごみ袋に入れて、紙製の物は雑紙として出してください。

※くわしくはクリーン推進課 ☎ 20・1530へ。

残さず食べよう! 30・10運動

さんまる いちまる

飲食店などから出る生ごみのうち、約6割が食べ残した料理です。会食、宴会時の食べ残しを減らし、食品ロスを削減していくために「残さず食べよう! 30・10運動」が考案され、全国でこの取り組みが広がっています。

「もったいない」を心がけ、次のことを実践しましょう。

- 食べきれぬ分だけ注文する
- 乾杯後30分間は席を立たず料理を楽しむ
- お開き前10分間は自分の席に戻って料理を楽しむ

